

2016 spring & summer
ニュースレター Vol.39

Voice of friends


FRIENDS
WITHOUT A BORDER





▲1995 年／カンボジアで小児医療を志した井津建郎が団体設立



▲2013 年／アンコール小児病院が自立。カンボジア人の運営に



▲2015 年／ラオ・フレンズ小児病院開院。第 2 の AHC を目指す



▲1999 年／アンコール小児病院 (AHC) 開院。医療・教育・予防に着手



▲2013 年／AHC が自立。カンボジア人による運営に



▲2013 年／ミャンマーの現地医療支援団体へもサポートを開始

FRIENDS WITHOUT A BORDER

フレンズ JAPAN 20 周年

20

フレンズ JAPAN 設立 20 周年

1995 年にニューヨークで誕生したフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーが、東京オフィスを設置したのは 1996 年のこと。フレンズ JAPAN は、今年で 20 歳を迎えます。

ひとりの日本人カメラマンの熱い思いからスタートしたフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー。「写真家がなぜ医療を？」と怪訝に思われることも少なくない中、支援の輪は世界中に広がり、カンボジアのアンコール小児病院 (AHC)、ラオスのラオ・フレンズ小児病院 (LFHC) 開院へとつながってまいりました。

ただ支援するのではなく、現地のスタッフを育て、現地スタッフたちの手で運営していけるようにサポートするのがフレンズの考え方です。AHC は無事にフレンズの元を巣立ち、「カンボジア人の、カンボジア人による、カンボジア人のための小児病院」を実践しています。さらに 10 年後、30 周年を迎える頃には、LFHC が第 2 の AHC となっていることを目標に、現在も奮闘中です。皆さまには、引き続きのご理解とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

フレンズJAPAN 20周年を迎えて



フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーは今年で創設 20 周年を迎えました。その間、カンボジア・シェムリアップのアンコール小児病院が自立し、ラオス・ルアンパバーンに新たなプロジェクトとしてラオ・フレンズ小児病院をスタートするという想像を超えたステップアップができたのは、皆さまのご支援の賜物だと実感しています。

ずっと赤ちゃん NPO だと思っていましたが、いつの間にか歴史を持てる団体へと成長しました。これからも幾多の挑戦があることは予想されますが、これからの 10 年を、ラオスの国に根付いた医療づくりに全力で臨みたいと思います。

またこの場をお借りしてご報告させていただきますが、この度、私、赤尾和美がフレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN の代表に就任することになりました。17 年間でフレンズと共に過ごしてきた経験と現場からの視点をこの大役に活かし、新たなフレンズ JAPAN を作っていきたく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPAN
代表 赤尾和美



ラオス／開院 1 周年記念式典挙行

LFHC は、2016 年 2 月 11 日、開院 1 周年を迎えました。開院記念日に先立ち、1 月 27 日、1 周年記念式典を挙行。フレンズ創設者の井津建郎、フレンズ JAPAN 代表で LFHC 看護師の赤尾和美をはじめ、フレンズ USA の理事や支援者の方々、ラオスの政府高官にもご参列いただきました。



▲ラオスの政府高官も、病院マスコットのジャイディーとにっこり

式典後は、ヘルスプロモーションイベントを開催。病院マスコットのジャイディーが登場して、子どもたちと遊んだり、はたまた怖がらせたり（喜ぶ子どもがいる一方、泣き出す子どもも……）。健康教育のためのポスターを貼り出し、栄養教育のためにはクッキングデモンストレーションを行いました。クッキングデモンストレーションで作ったのは、肉や野菜、豆腐、卵などが入った栄養満点のおじやです。調理担当は、医師や看護師を含む病院スタッフたち。皆に振る舞ったところ、あっという間に大鍋が底をつくほどの盛況ぶりでした。何度もおかわりする子どももいて、一生懸命に調理したスタッフたちは感激しきりです。

1 周年の記念行事は、病院スタッフと式典参加者に患者さんも交え、楽しくなごやかな催しとなりました。2 年目に入り、院内活動はますます充実していくはずです。今後の成長にご期待ください。



ラオス／手術室オープンに向け準備中



▲手術室の始動で、より高度な医療が可能になります

開院時は外来のみで診療を始めた LFHC ですが、昨年 8 月に入院病棟、11 月には救急治療室をオープン。現在は、手術室オープンに向けた準備を進めています。

医療技術やケア方法はもちろん重要ですし、できれば設備面も、より充実させたい。感染予防のための HEPA フィルターユニットを設置したいけれど、予算には限りがあります。そこで、赤尾看護師がインターネットの支援サイト「READYFOR」を通じて、資金確保に挑戦中です。

http://readyfor.jp/projects/LFHC_OT にアクセスして、ご協力をお願いいたします。同封のチラシもご参照ください。

患者統計 (2015 年)

来院患者総数：10,800 人

入院患者数：252 人

術後の患者受け入れ数：50 人以上

訪問看護対象患者数：2,609 人

レントゲン・超音波検査実施件数：805 件

臨床検査実施件数：2,609 件

薬の処方件数：67,806 件



カンボジア／開院 17 周年記念式典挙行

アンコール小児病院（AHC）は開院から 17 年を迎え、2016 年 1 月 30 日、17 周年記念式典が執り行われました。開院日が 2 月 22 日であったことから毎年 1 月から 2 月に行われる記念式典は、病院スタッフにとってとても大切な節目の行事です。フレンズにとってもそれは同様で、創設者の井津をはじめ、赤尾看護師、フレンズ USA の理事、開院前から継続してご支援をいただいている元フレンズ JAPAN 理事長の蒲池真澄氏や古くからのご支援者様たちも参列しました。

AHC がフレンズから自立して 3 年。カンボジア人たちの手でしっかりと運営がなされ、診療・教育・予防の 3 本の柱をより強固にすべく頑張っているようです。フレンズはこれからも、厳しくあたためまいなごして AHC を見守ってまいります。



▲記念式典には病院スタッフもドレスアップして参加します



ミャンマー／栄養教育支援を継続

フレンズ JAPAN は、ミャンマーで活動する現地の NGO／ゴールドミャンマーに支援を行い、栄養教育をサポートしています。今後もサポートを続けるに当たり、昨年末、これまでのプロジェクト評価と今後の活動プランニングを行うために、赤尾看護師が現地を訪問しました。ニーズに合った効果的な支援とすべく、活動地域を選定して教育内容や教育対象などを再検討。次年度の活動につなげていきます。

ミャンマーは今、政治や経済が大きく変革し、国全体が勢いづいています。私たちの活動が、わずかでも発展の一助となることを願っています。



▲栄養教育に参加するため、集まってくれた村人たち。どこで開催しても、皆とても熱心です

運搬協力ボランティアのみなさん

フレンズでは常時、多くのボランティアさんの力を借りて活動を行っています。「ボランティア」とひと言っても、その内容は多種多様。多岐にわたる募集を行っており、そのひとつに「運搬協力ボランティア」があります。旅行や仕事でラオスを訪問予定の方に、必要物資をビジターセンターまで届けていただくのが「運搬協力ボランティア」です。

アンコール小児病院（AHC）を運営していた時代のカンボジアへの運搬も含めると、これまで、本当にたくさんの方々にも物資を運んでいただきました。ガーゼや歯ブラシ、タオル、子ども服、時には書類であったり。ただ、現地に足を運ばねばなりませんので、単発的なボランティア、という印象が拭えません。しかし、そんな中、いくたびも運搬をしていただ

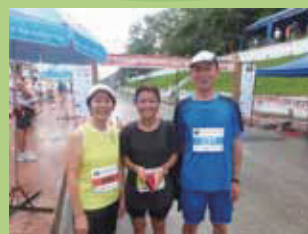


▲中村博帝さん

いている方々がいらっしゃいます。

浜田武司さん・厚さんご夫妻は、AHC 時代からの付き合いです。シェムリアップで開催されるアンコールワット国際ハーフマラソンに毎年参

Supporter



▲浜田武司さん・厚さんご夫妻

加されていて、ある時、日本食レストランで赤尾と知り合い、フレンズの活動を物心両面から応援してくださるようになりました。一昨年から、チャリティーとして開催されるルアンパバーン・ハーフマラソンにお出かけの折に必ずお声がけくださるので、ありがたく運搬をお願いしています。

中村博帝さんは、赤尾を取り上げたテレビ番組をご覧になってすぐ、お問い合わせをいただきました。ラオスへご旅行する機会が多いとのこと、すでに何度も運搬をお願いしています。

ご旅行の際に、トランクの一部と旅先でのお時間を少し、フレンズに割いていただくことになりますが、これからもご協力をお願いいたします。

ラオスへの「運搬協力ボランティア」は、随時募集中です。詳細は、事務局までお問い合わせください。

Act Against AIDS 2015 in 東京 (2015年12月1日)

日本武道館

世界エイズデーに合わせ日本各地でエイズ啓発活動を行っている Act Against AIDS の武道館イベント【THE VARIETY】



が開催されました。このイベントの収益金の一部をラオ・フレズ小児病院 (LFHC) にご支援いただいています。

たくさんのミュージシャンや俳優、コメディアンなど、ジャンルを超えたアーティストが多様なパフォーマンスを繰り広げる Act Against AIDS【THE VARIETY】は、各種メディアの芸能ニュースでも毎年報じられているので、ご存知の方も多いかと思います。歌あり、ダンスあり、笑いあり。ここでしか見ることができないスペシャルなコラボもありで、どこを取っても見逃せないパフォーマンスばかり。最初から最後まで息つく暇もない構成で楽しませてくれるのは、さすがプロの技だと感動させられます。チケットを購入してその場にいることがそのままチャリティーになるので、まさに一石二鳥のイベントです。

会場の外には LFHC の活動を紹介するブースが設けられ、ま

に
紹介
する
ブー
ス
に
設
け
ら
れ
た
LFHC
前



た、イベントの中でも、LFHC の紹介と、支援金がどのように活かされているかの報告が行われました。

Act Against AIDS 2015 in 五所川原 (2015年12月2日 五所川原第一中学校)

ボーカルデュオ・サエラさんのコンサートと赤尾看護師の講演で構成する AAA 青森は、同会場で 3 年連続開催として企画されているイベントの 2 回目。『みんなは大切な宝物』をテーマにした講演で、命の尊さとエイズの知識を、今回は 2 年生だった生徒に向けて話しました。

▼出演者のサエラさんと赤尾看護師に生徒代表からあいさつ



感します。今年の 12 月、ついに 3 回目が開催される予定です。

ジャパンハート×フレンズ コラボトーク イベント (2016年3月27日 神楽坂 Human Capital Studio)

ジャパンハートは、ミャンマーをはじめアジアで医療活動を行っている認定 NPO 法人です。フレンズとは活動地域や活動内容に共通することが多いことから、ジャパンハートの武内看護師と当団体の赤尾看護師によるトークイベントを共同開催しました。

イベント告知後は事前申し込みがすぐに定員オーバーし、急ぎよ定員数を増員。多くの方に関心を寄せていただき、当日は満員御礼となりました。

共通点が多い 2 つの団体ですが、コラボトークを通して、「ジャパンハートはアジアで医療支援を行うとともに、現地に対応できる日本人医療者も育てる」「フレンズはアジアで医療支援を行い現地人のスタッフを育てる」ことが大きな違いであると判明。両者のそれぞれの姿が浮き彫りになったと思います。

参加者の多くは、海外での活動に興味のある医療従事者や医療系学生だったようで、質疑応答も活発に行われました。海外に目を向けたきっかけ、必要な語学力、給与や保険などの待遇といった具体的な質問もあり、内容の濃いイベントになったと自負しています。これは、コラボレーションであったがゆえの結果でもあります。私たちにとって新たな発見でもありました。この経験を、今後のイベント企画にも活かしていきたいと思っています。



▼予想以上の参加者があり、熱気あふれるイベントとなりました

ラオスを知ろう ラオスの食文化

日本、とりわけ東京では、世界各地の料理をだいたい口にすることができると、テレビのバラエティー番組で紹介されていました。けれども、ラオス料理、というのは、探るのが難しそう。あまり馴染みがない印象です。

ラオスの主食は、蒸したもち米。また、フランス統治時代の名残でフランスパンもよく食され、街中ではフランスパンを用いたサンドイッチの屋台も見受けられます。副菜の調理には、ライム、レモングラス、ミント、バジル、コリアンダーといった様々なハーブを使うのが一般的。ハーブは薬味としても用いられ、お好みで料理に追加したりもします。

タケノコや魚のスープ、細かく刻んだ牛肉または魚を魚醤（ナムバー）とハーブで味付ける「ラープ」は、ラオス料理の代表格。魚やエビに唐辛子を混ぜて作る「チェオ」という味噌状の調味料をご飯やおかずでディップするのも庶民的な食べ方です。全体的にさっぱりとヘルシーな料理が多く、日本人の口に合うものが多いと言われています。



▲蒸したもち米は竹で編んだラオスのおひつに入れます。このまま持ち運びも OK

院内の活動は、日々劇的な進歩を遂げ、目に見えてその成果が現れています。院外の活動も、地道ではありますが、着実に小さな命を守り始めています。ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)の訪問看護プログラム活動を知った郡病院から「ぜひ訪問してもらいたい家庭がある」と紹介されたHちゃんの症例をご紹介します。紹介された理由は、『この家庭のお母さんは8人の子どもを出産したが、7人死亡してしまい、現在3か月のHちゃんも小さい』ということでした。8人のうち7人が死亡とは、尋常ではないことです。早速、Hちゃん宅へ伺い情報収集です。お父さんとお母さん、Hちゃんの3人暮らしで、小さな竹の家に住んでいました。色々とお話を聞き取りましたが、7人の子どもの死亡原因を特定することは難しく、ただ、栄養不足に関連した原因で、5歳に満たない前にみんな死亡しているのか???と推測するくらいしかできませんでした。そして、現状としては、決まった収入はほとんどなく、食事はお米と塩と唐辛子。この数日は食事すらしていない。お母さんのおっぱいが出ないので、Hちゃんへの栄養は重湯を哺乳瓶に入れてあげているということでした。Hちゃんは、見た目ですぐにタンパク質不足の栄養失

の凄腕！
▶多才なドライバーさん



▲お母さんも干物作りに挑戦!

調だということが分かりましたし、体重3キログラムは年齢の平均よりかなり低体重です。感染症にもかかっている心当たりが良くないのでしょう、常に泣いてばかりでした。重症の栄養失調なので、病院で治療が必要となります。直ぐにLFHCへ搬送し、入院。感染症治療に合わせ、お母さんへの栄養



◀退院後2週間で最初の訪問看護時—かわい〜!

補給をしながら搾乳指導と不足分の栄養を粉ミルクで補い経過観察。Hちゃんの体重はみるみる増加し、皮膚の色も艶もととも良くなってきました。あやすとにつこり笑う顔は、最高にかわいい!退院も視野に入ってきたのですが、ここで考えなければいけないのが、退院後のHちゃんの生活です。現状のままでは、また重湯生活に戻ってしまい成長も止まってしまう。家族が安定した収入を確保し、十分な食糧が確保されるようにならなければなりません。病院での治療は、Hちゃんの命を維持するほんの一部なのです。そこで、他団体とも協力をして、退院後の食糧補給と定期的な身体測定と訪問看護によるフォローアップを計画しました。生きるすべを身に付けることも重要です。今のままでもできることがたくさんあるのですが、それに気が付かなければ何も生産されません。そのひとつとして、多才なLFHCのドライバーさんが干物の作り方を伝授!早速お母さんも作ってみました。さらに、Hちゃんのお父さんと、収入を安定させるためには何ができるのかということ話し合い、養鶏をやってみるということになりました。しかし、喜んでばかりもいられません。これまでの経験から、実際に行動に移して収入を確保するに至るには、ここからの綿密なフォローアップが必要になってきます。あの時、郡病院からの紹介がなく、LFHCが介入していなければきっと、Hちゃんも命がなかったのではとみんなで話しています。これからが正念場。Hちゃんの後後も随時ご報告していきますと思います。〈ラオス11~12月の出来事より抜粋〉

赤尾 kazumi akao
和美 看護師の

「今月の出来事」から

フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダー JAPANはミャンマーでの活動も少額ですが支援をしています。今回、プロジェクト評価と今後のプランニングのために現地入りしてきました



◀お母さんたちへ栄養の健康教育中



◀スーチーさん庄勝直後。国民の期待を実感



◀腕の周囲で栄養状態をチェック



◀なんてかわゆいのでしょね

た。国内は選挙直後で国民の“前進あるのみ”というような期待に満ちた士気を感じました。今後が楽しみな国ですね。

〈ミャンマー11~12月の出来事より抜粋〉

アイ看護師とクーリー看護師のアンコール小児病院 (AHC) 研修です。LFHC の手術室のオープン予定は来年初頭。そこへ照準を合わせた、麻酔専門 ナースになるための 5 か月間の研修です。AHC はご存じの通り、LFHC の姉妹病院となる存在です。LFHC プロジェクトが発表されて以来、AHC スタッフから度々聞かれるのが、「16 年かけて修得したものを次は僕たちが教えていく番です」という逞しい言葉。嬉しいですね。惜しみなくシェアしていきたいという姿勢を見るたびについウルウルする私ですが、ホント、大きく成長してくれたものですね。5 か月間の異国での研修はたやすくはないでしょう。でも、これを乗り越えたら大きな自信がつくはずですよ。私も老婆心+お節介でちょっと様子を見に行こうかなと思っています

おります。また元気な研修姿をご報告できると思います。お楽しみに! (ラオス 9~10 月の出来事より抜粋)



◀二人とも新たな挑戦に生き生きといってお顔ですね!

今年も恒例、美容師ボランティアの皆さん (ヘアー・デザイナー・ウィズアウト・ア・ボーダー) がお越しくださいました。学校や村へ行き、切りまくりの 3 日間を過ごしていただきました。たぶん、300 人以上の子どもや家族が素敵なヘアーになったはずですよ。お疲れ様でした! 継続することはとても難しいことです。このヘアーボランティアの皆さんが、メンバーを変えながらも 15 年継続してくださっていることに、感謝感激です。そして恰好いいです! はさみで子どもたちとの距離が一気に縮まるって羨ましいです。今年は、カットに加えて、シラミ退治も実施。病院スタッフもシラミ隊に加勢し頑張りました。ラオスでは女の子はヘアカットを

あまりしないので、シラミが増えまくる。ペット状態ですよ。久々に見た、大量のシラミ! 来年もお待ちしております! (ラオス 9~10 月の出来事より抜粋)



◀青空美容室はいつでもどこでも大盛況

Buddhist Lent Day という祭日がラオスにはあります。8 月から 10 月のこの時期まで、僧侶はお寺で修行に励みます。そして、その期間が終了し、お寺では紙で船を作り、メコン川に流しに行きます。ラオス語ではロン・ファー・ファイと言います。お寺の境内には色とりどりのランタンが飾られ、僧侶が火を絶やさないようにしていました。幻想的なラン

▶私のカートウング



タンの風景の中、お経が響きます。幻想的な中で響くお経の声は、じ〜んと胸の中にしみこんできました。人々は、バナナの葉っぱと花で作ったカートウングというものを作り (購入し)、川へ流しに行きます。ラオス語では、ロイ・カートウングと



▲お寺の中はランタンで彩られていました。なんとも幻想的

言います。邪気を払い福を呼び込めるよう祈り、ご先祖様への供養もするところを見ると、お盆の意味合いもあるのかと思います。灯籠流しとラオス人のガイドさんも言っていました。いずれにしても、年間にあるいくつかの節目の日。皆それぞれがそれぞれの思いで、この日を迎えたことと思います。私事ですが、私もカートウングを持って欲張りなくらいお願いを込めてメコン川へ流しました。いい年になりますように…。 (ラオス 9~10 月の出来事より抜粋)

ご支援について

フレンズの活動にご支援をお願いいたします。

ご支援の方法をお選びいただけます。

- 一般賛助会員：年会費 1口6,000円
- 学生賛助会員：年会費 1口3,000円
- 一般寄付：金額・回数自由
- 正会員：年会費 個人12,000円
団体・法人30,000円

*ご支援いただいた方には、年2回発行のニューズレター、報告会やイベントの案内等をお送りします。

*正会員は、総会において、団体の意志決定にご参加いただけます（委任状可）。正会員になるためには、当法人が定める入会申込書の提出が必要となります。別途お問い合わせください。

*平成28年7月28日までのご入金に対しては寄付金控除が可能な領収証を発行いたします。正会員には発行されませんのでご注意ください。

入金方法をお選びいただけます。

●郵便口座

加入者名：特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN
振替番号：00160-0-546217

●銀行口座

銀行名：三菱東京UFJ銀行 中目黒支店
口座番号：普通預金0420041
口座名：トクヒ）フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダージャパン

●クレジット決済

インターネットを通じ、クレジットカードでご支援いただくことができます。フレンズJAPANのホームページwww.fwab.jpにアクセスして右上の「寄付をする」をクリックし、手順に沿ってお手続きください。

*専用の振込用紙がございますので、ご希望の方は、お電話、メール、ホームページのお問い合わせフォーム等でお申し付けください。

*銀行からのお振込みや、ご自身の郵便口座より直接送金される場合、送金者を特定することができません。お手数ですが、お電話またはメールでご連絡をお願いいたします。

*アンコール小児病院（カンボジア）に限定したご支援をご希望される方は、その旨を電話またはメールでお知らせください。振込用紙をご使用の場合は、備考欄にその旨をご記入願います。

Information

事務局移転のお知らせ

フレンズJAPANの事務局が移転しました。慣れ親しんだ目黒を離れるのは寂しいですが、新しいオフィスで、気持ちも新たに頑張ります！ボランティアさんが集まると身動きをとるにも一苦労だった旧オフィスに比べ、新オフィスは少し広くなりましたので、お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

「認定」期間終了に関して

本年7月31日をもって、認定NPO法人の期間が終了します。

監督機関が国税庁から東京都（地方自治体）に変わり、再度、認定取得のための申請準備を進めておりました。その過程で、取得要件を満たすためには、定款の事業内容記載方法を一部変更する必要があるとわかり、一旦、申請を取り下げることいたしました。

認定期間終了後のご寄付には、税控除可能な領収証ではなく、税控除のできない受領書のみを発行いたしますので、ご了承ください。

※平成28年7月28日までにご入金いただいたご寄付には、税控除可能な領収証を発行いたします。


FRIENDS
WITHOUT A BORDER

www.fwab.jp

認定NPO法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

〒103-0001

東京都中央区日本橋小伝馬町16-8
共同ビル7F

TEL/FAX：03-6661-7558
friends@fwab.jp

Friends Without A Border

1123 Broadway, Suite 1210
New York, NY 10010 USA
TEL：212-691-0909
FAX: 212-337-8052

Lao Friends Hospital for Children
P.O.Box 873, Luang Prabang, Lao PDR
TEL: 856-071-254-247